

# 清流のほとり

令和6年8月27日(火)発行

園長 津田 将美



ENCHO

両方の園にアクセスしていただき閲覧数のアップ、情報の共有にご協力ください。



寄 松田

カラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

## 失敗から生まれるもの

「テープカッターは、子どもたちが作業しやすいように、カットしやすいものの方がいいですね。」

夏の実技研修で講師の先生からいただいた多くの助言やご指導の中のひとつです。副園長は善は急げと、研修会後すぐに、子どもたちが使いやすいようなカッターをカタログの中から選び、FAXにて10個注文してくれました。

子どもたちと教師がより良い保育に向かっていけるように、常に迅速に誠実に対応しようと努めてくれる副園長を職員も信頼しています。

翌日にテープカッターが届きました。

10個注文したはずなのですが、届いたのは段ボールの箱でした。たまたま副園長は不在でしたので、対応した職員に配達員さんが言いました。

「これが10箱、届きます。」

集まってきた職員は顔を見合わせ、しばらくしてから大爆笑が起きました。みんなでにこにこしながら研修会後の出来事を振り返り、言葉にしています。

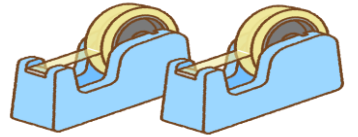
そして、ほのぼのとした雰囲気の中で、無事に返品手続きは終了しました。私は、その場にいることができたことをとても心地よく、うれしく感じました。

副園長はテープカッターを10個ではなく、10箱頼んでしまいました。でもそれは、子どもたちや職員のことを考え一生懸命やってくれたこと。そしてそれは「今」だけでなく「いつも」してくれていることであるからこそ失敗を前向きに受け入れ、あたたかい雰囲気に変える力が、松田幼稚園の職員室にあるのだと感じました。

以前の園だよりでも紹介しましたが、職員は「反省」という言葉をよく口にします。それは、失敗を恐れずに子どもたちのためになることには勇気をもって挑戦するからです。その中には、成功も失敗もあります。そして失敗からは新しい価値が生まれ、よりよい道筋が見えてくるものです。

このことは、日常の保育の中でも言えることです。職員は決して先回りして子どもたちが失敗しないように動くことはありません。まず考えさせて、時には仲間と共有しながら試すこと、経験させることを大切にしています。それが成功につながれば大きな自信と「自分たちでできた」という自己肯定感につながります。たとえ失敗だったとしても、そこから学べることは無限大です。

そう考えると、失敗から生まれるものは、大人も子どもも同じなのかもしれません。これからも失敗を恐れずに進み続けることのできる大人であり、そして、そういう子どもたちを育てていきたいと思えます。



お楽しみ会、本当に笑顔あふれる素敵な会となりました。役員・ボランティアのみなさん、ありがとうございました。